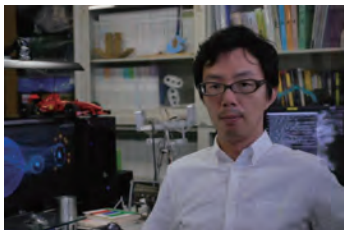


第9回競基弘賞学術業績賞



衣笠 哲也 Tetsuya Kinugasa

1971年11月29日生

1999年3月 大阪府立大学大学院工学研究科博士後期課程修了  
博士(工学)

1999年4月 津山工業高等専門学校電子制御工学科助手

2002年4月 岡山理科大学工学部機械システム工学科講師

2008年4月 岡山理科大学工学部機械システム工学科准教授

「柔軟全周囲クローラ(FMT)」

<概要> 本研究は、3軸方向に湾曲することが可能な1本の柔軟なクローラによる新しい移動機構:柔軟全周囲クローラ(FMT)を提案するとともに、実機によりその移動特性を明らかにした。FMTは、剛体で構成される従来のクローラ型移動機構とは異なり、側面を除く全周囲をクローラベルトで被覆可能であるため、突起物乗り上げや布状物巻き込みなどの問題を回避できる可能性がある。また、旋回時、路面に対する滑りが少なく、差動旋回を行う場合に問題となる軟弱地における路面損傷を低減できる。したがって、災害の状況に合わせて従来の移動機構とともに選択的に用いることで、多様な災害現場での状況に応じたレスキュー活動の一端を担える可能性を持っている。

特別賞



柴田 崇徳 Takanori Shibata

1967年 富山 生

1992年 名古屋大学大学院修了 博士(工学)

1993年 通産省工技院機技研 研究官

1995-1998年 米国MIT人工知能研究所研究員兼任

1998-2001年 通産省工技院機技研 主任研究官

2001-2013年 産業技術総合研究所 主任研究員

2009-2010年 内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション担当)付・  
参事官(情報通信担当)

2013年から現職

2011年3月11日の東日本大震災と福島原発事故等により、東北地方や首都圏で多くの人々が被災した。避難所での生活が長引く中、2週間から1か月ほどで最低限の衣食住が確保されても、集団生活のストレス、将来の不安、家族の安否の不安等があった。また、数か月たち、仮設住宅等に入居しても、環境の変化や、新たな人間関係の構築等のストレスがあった。多くの支援者も、話しかけを難しく感じていた。そのような中、これまでの震災時の経験を踏まえて、震災後1か月目からを目安に、避難所に管理者の許可を得てセラピー用ロボット・パロと共に訪問を開始し、企業等の連携により、被災地の医療福祉施設、各種学校、仮設住宅地等へ無償貸し出しやアメリカからの寄贈等を実施することにより、多くの人々が笑顔を取り戻し、自然な会話をを行い、被災者同士や被災者と支援者のコミュニケーションのきっかけや話題になり、非常に喜ばれた。現在も、約80対のパロが東北3県の被災地支援活動として活用されている。